



てんかんセンター巡り 第3回

東北大学病院

施設概要

住所 〒980-0872 宮城県仙台市青葉区星陵町1-1
電話 022-717-7000 (代)
ホームページ <http://www.hosp.tohoku.ac.jp/>

日本てんかん学会
専門医の人数 小児科：4人、脳外科：2人、精神科：1人、神経内科：1人

* 診療には原則として予約が必要です。診療に関するお問い合わせは、東北大学病院
地域医療連携センター（電話022-717-7131）までお願いします。

東北大学病院は全国てんかんセンター協議会所属に登録されている主医療機関としては、東北で唯一の施設です。てんかん専門医8名（小児科4、脳外科2、精神科1、神経内科1）が登録されており、診療は複数の科で実施されています。

ここでは「てんかん科」の活動を中心に紹介します。

てんかん科の誕生

国内の大学病院としては初の「てんかん科」は2010年に発足しました。翌2011年には大学の研究部門として「てんかん学分野」も誕生し、東北大学は文字通り、てんかんを正面に見据えて活動しています。



JEPICA
Japan Epilepsy Center Association
全国てんかんセンター協議会

診療機関として

わが国は先進国でありながら、てんかん診療には多くの問題があります。とくに外来診療だけの医療は問題です。てんかん科では入院検査を重視し、ビデオ脳波モニタリングが可能な4床をフル回転させ診療の核としています。入院中には画像検査のほか、神経心理検査や心理社会的評価も行います。病気だけでなく人生そのものを見据えた治療方針の決定を行うためです。

退院後に多くの医師や職種のスタッフが集まり、治療方針を決める検討会を開催しています。ひとりの患者さんの大切な人生ですから、数十名の脳と心を1カ所に結集しているのです。

外来診療では初診に1時間をかけています。その結果、予約待ちが数ヶ月に及ぶ場合もありますが、紹介された時点で主治医に連絡し、必要な場合は直接の入院を勧める場合もあります。治療方針が決まった患者さんには、かかりつけ医に早めに戻すことも大切です。これによって診療連携の信頼度が増し、さらに多くの新しい患者さんの診療を行えるようになるからです。

教育機関として

大学はさまざまな立場の人たちに教育の機会を与える場です。学生・医療関係者・研究者の人たちに、診療の様子を

見学してもらう機会や講義をする機会がたくさんあります。

とくに毎週開催される院内の症例検討会と、毎月開催される外部の関係者も含めた東北大学症例検討会は、教育の場として最高レベルです。東日本大震災ののち、遠隔テレビ会議システムが導入され、現在は全国8カ所の施設と連結されています。ここでは小児科、てんかん科、脳神経外科の症例も中心に、全国の関係者らとの交流が行われています。

さらに症例検討会、講義、講演会だけでなく、新聞、テレビ、ラジオ、インターネットを幅広く利用し、医療関係者、教育関係者、一般市民にいたるまで、てんかんに対する誤解と偏見を取り除くアウトリーチ活動を展開しています。

(東北大学病院てんかん科教授 なか さと のぶ かず 中里 信和)

